藤田浩子の　少し昔のこと〈86〉

戦争　続き

先月第二次世界大戦のときを思い出しながら戦争というのは人殺しだと書かせていただきました。でも実際に人と人が向き合って戦ったのは、戦国時代までだったでしょう。鉄砲という物が日本に伝えられてからは鉄砲や大砲が武器の主役になり、飛行機が発明されてからは、空から落とされる爆弾がそれに加わり、地面には地雷が埋められました。今は「核」です。自分の殺す相手が見えないまま、殺すことになったのです。そんなときに、捕虜を殺すことで人殺しの訓練をしたり、学生に竹やりで訓練させたって、まったく無駄だったんですよ、と私に戦争を語ってくださった方はおっしゃっていました。

今は自分の殺す相手が見えないまま殺すことになってしまったのです。殺すためにはボタンをひとつ押せばいいのですから。おれはこんなすごいものを持っているんだぞ、おれなんかもっとすごいこんなのを持っているんだぞと、子どものように自慢し合っている人たちが権力者なのです。自慢し合うだけならまだしも、その権力者がいつ「気ちがい」になるか、しもじもの私たちにはわからない、そこがなんとも不安なところです。

パンドラの箱のように開けてはいけない箱を開けてしまう、「希望」だけでも残ればいいのですが「核のボタン」を押してしまったら……。昔から「気ちかいに刃物」という言葉がありますが、気ちがいに刃物をもたせるのは危険です。

戦争は人殺しです。政治家に求められているのは「人殺し」ではなく「話し合い」です。上手に育てられた子なら、幼稚園の子だって話し合いで解決できます。一見もたもたぐずぐずしているように見えますが「話し合い」こそ「みんな仲良く」につながる方法です。日本の、いえ世界中の権力者に「話し合いを！」と言いたい私です。

リレー連載 ＜219＞

わたしの大好きな絵本

よっちゃん（元楽々会）

『わたしのワンピース』
にしまきかやこ　絵と文
こぐま社

空から落ちてきた真っ白なきれを拾ったうさぎの女の子が、ミシンを踏んでワンピースを作ります。出来上がったワンピースを着てお花畑を散歩するとワンピースは花模様になり、雨の中では水玉模様になります。小鳥の模様になった時にはそのまま空を飛び、虹の中では七色の模様になり、次々と模様が変わっていくワンピース。しだいに夕方から夜になり、やがて夜が明けるとワンピースは･･･?!

色彩豊かな親しみやすい絵とカタカタとミシンを踏む場面やワンピースを着てラララン ロロロンとリズミカルに歌う場面が印象的です。読み聞かせの際には自己流の節をつけて歌っています。

私が子どもの頃、母は足踏みミシンを踏んでよく服を仕立ててくれました。新しいワンピースやスカートを身に纏って、ウキウキしながら外に出かけた事を思い出します。

1969 年初版当時のミシンは、足踏み式でした。

50 年以上の時を越えて愛されている絵本です。